

平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立宮の原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 31 (2019) 年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成 31 (2019) 年 4 月 18 日 (木)

3 調査対象

小学校 第 4 学年、第 5 学年 (国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第 2 学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

4 本校の実施状況

第 4 学年	国語	62 人	算数	62 人	理科	63 人
第 5 学年	国語	51 人	算数	51 人	理科	51 人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

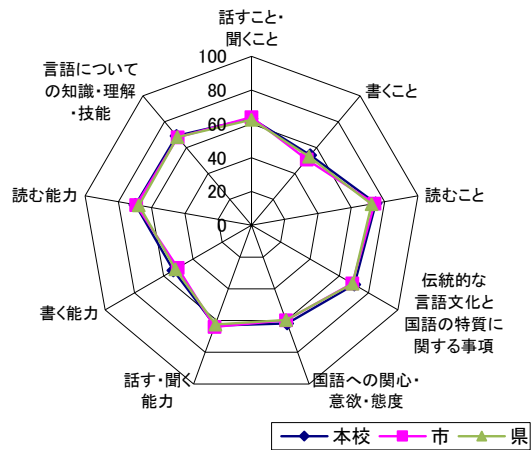
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.2	64.0	62.5
	書くこと	54.2	50.9	53.1
	読むこと	74.7	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	70.3	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	61.8	59.9	59.7
	話す・聞く能力	63.2	64.0	62.5
	書く能力	53.4	50.4	52.0
	読む能力	69.7	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	69.0	67.9	68.2



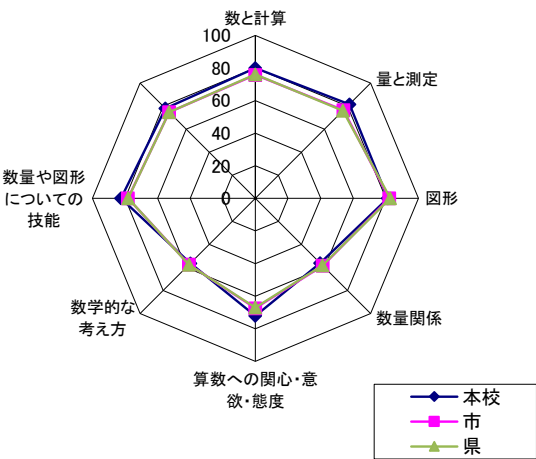
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均をやや上回った。 ○話の大まかな内容を聞き取る問題は正答率100%、さらに相手の提案に対して自分の意見と理由を考える問題は聞く力が身に付いていると言える。 ●考えを相手に伝えるために工夫している点を選択する問題で1.9%、インタビューで質問のねらいを選択する問題で3.3ポイント正答率が県の平均を下回っており、聞き方や話し方を工夫する力が十分ではないと考えられる。	・国語の時間やその他の教科の学習や様々な活動の中で、効果的な質問の仕方や的確に意図を伝える話し方について確認しながら経験を重ねていけるようにする。 ・日常の会話の中でも正しい言葉遣いや話し方について意識をもたせるようにする。
書くこと	平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○文章を指定された長さで書くことで2.7ポイント、中心を明確にして書くことで6.2%、理由や事例を挙げて書くことで3.9ポイント正答率が県の平均を上回っており、学校として取り組んできた書く活動に重点を置いた指導の成果と考えられる。 ●2段落構成で文章を書くことは正答率が県の平均を8.2ポイント下回り、段落を意識して文章を書く力が身に付いていないと考えられる。	・国語の文章を書く活動や日常的な日記等の指導において、段落構成を意識して文章を書く経験を積ませる。 ・段落構成に条件を付けて文章を書く経験ができる場を意図的に設定していく。 ・読み取りを中心とした学習においても、段落の構成に着目し、段落の構成や相互関係などについて理解を深められるようにしていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均を上回った。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ちを読み取る問題、説明文の内容を読み取る問題の正答率は、ほぼ県の平均正答率を上回っている。 ●カマキリの威嚇行動の意味を説明文の中から読み取って選択する問題では、正答率が県の平均を3.5ポイント下回っており、経験していない質問の仕方に対応できない傾向があると考えられる。	・様々な文章に慣れ親しませ、文章の内容を日常生活を結び付けたり、発展的に考えたりする読み方を経験させていく。 ・説明文では、文章に挙げられた事例の他にどのような事例があるか考えたり、実際に他の事例を挙げて類似の文章を書いたりすることで理解を深める活動を取り入れる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、県の平均をやや上回った。 ○漢字の読む、書く問題では、正答率が県の平均正答率を上回っているものがほとんどであり、既習の漢字がおおよそ身に付いていると考えられる。 ●文の中から主語と述語を選択する問題は正答率40.3%で、県の平均を12.4ポイント下回っている。分の構成について十分に理解できていないと考えられる。 ●国語辞典の使い方、「おとした」を「おとす」という形で調べることを選択する問題は正答率35.5%で、県の平均を8.4ポイント下回っており、国語辞典の使い方が理解できていないと考えられる。	・スキルの活用、朝の学習、家庭学習などを通して、漢字の学習を継続していく。 ・文の構成について復習し、主語と述語の関係を確認するとともに、文章を読み取る活動においても主語と述語の関係を正しく読むことを意識して指導していく。 ・国語辞典の使い方を再確認するとともに、日常的に国語辞典を使う機会を増やしていくとともに、語形の変化についても再度確認して定着を図る。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.0	75.8	76.1
	量と測定	81.6	76.5	76.0
	図形	81.2	82.1	82.7
	数量関係	56.1	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	72.1	67.4	67.0
	数学的な考え方	56.4	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	82.5	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	78.1	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

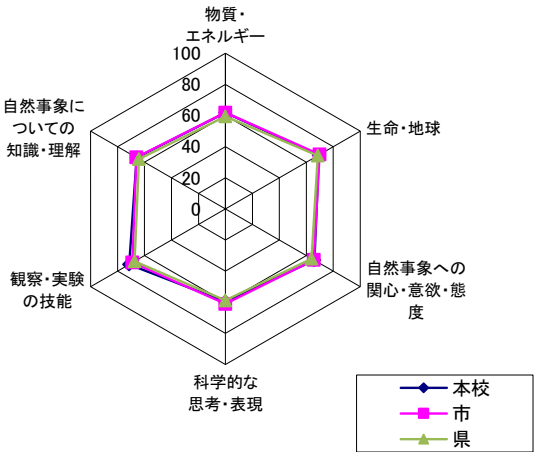
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は県の平均を上回った。 ○加減乗除の計算問題の正答率は、全て県の平均を上回っており、基礎的な計算力が着実に身に付いていると考えられる。 ●分数を数直線上から選択する設問の正答率は56.5%で、県の平均を13.8ポイント下回った。	・スキルの活用、朝の学習や家庭学習等を通して基本的な計算練習を継続していく。 ・分数の仕組みについて復習し、確認する。特に1をいくつに等分するかに着目することを定着させる。
量と測定	平均正答率は県の平均を上回った。 ○時刻と時間、長さや重さに関しては、ほとんどの設問で県の平均正答率を上回っており、基本的な内容が概ね身に付いていると考えられる。 ●身近にあるものの重さを表している単位から正しいものを選択する設問の正答率は県の平均をわずかに下回った。	・算数以外の場面でも時刻や時間、長さや重さの知識を生かせる場面を意識し、さらに活用する力を伸ばしていく。 ・重さの単位について復習し、身の回りの物の重さをイメージして結び付けられるようにする。 ・長さや面積の単位について十分に時間を確保して指導するとともに、イメージしやすい具体物の長さや広さと結びつけるようにする。
図形	平均正答率は県の平均をやや下回った。 ○円の直径を表している図を選択する設問の正答率は、県の平均を3.8ポイント上回った。 ●球の半径から、球が2個入った箱の辺の長さを求める設問の正解率は58.1%で、県の平均を10.4ポイント下回った。	・円や球の直径と半径について復習し、確認する。 ・円や球を用いた応用問題に取り組ませ、習熟を図る。
数量関係	平均正答率は県の平均を下回った。 ○表と棒グラフに関する設問の正答率は県の平均を上回っており、学習した内容が概ね身に付いていると考えられる。 ●文章問題を解くための正しい除法の式を選択する設問の正答率は53.2%で、県の平均を11.7ポイント下回った。また、除法の分からない数を□として、話の場面を減法の式に表す設問の正答率は56.3%で、県の平均を13.8ポイント下回った。	・問題文を読みながら、必要な数字や大切な言葉に印をつける習慣を身に付けさせ、問題の意図を正しく捉えることができるようにする。 ・文章問題に取り組むときに、数直線や図で表す活動を取り入れることで、数量関係を正しく捉えられるようにしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	61.8	61.9	59.4
	生命・地球	69.3	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	66.0	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	59.6	61.0	58.8
	観察・実験の技能	71.4	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	65.8	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は県の平均を上回った。 ○鏡ではね返した光の進み方、はね返した光を重ねたところの明るさについて正しく理解できている。 ○2つのおもちゃを比較してゴムのはたらきについて推測する問題は正答率66.7%で、県の平均を11.1ポイント上回った。 ●実験の結果から分かるゼムクリップの磁性について選択する問題の正答率42.9%で、県の平均を6.9ポイント下回った。	・磁石の性質について確認し、復習する。とともに、磁石や磁力を応用したものなどにも発展させて考える力を育てる。 ・実験の結果や考察を自分の言葉でまとめる活動を繰り返し行うことで、説明する力や、質問の意図を捉える力を育てる。
生命・地球	平均正答率は県の平均をやや上回った。 ○昆虫の育ち方に関する問題は正答率が全て県の平均を5ポイント以上上回っており、正しく理解できていると考えられる。 ○太陽を見るときに使う道具として遮光版を選択する問題は正答率100%、温度計のめもりを読むときの目の位置を選択する問題は正答率が県の平均を10.9ポイント上回っており、を基本的な知識が身に付いていると考えられる。 ●植物の育つ順序を正しく並べる問題の正答率は41.3%で、県の平均を7.1ポイント下回っている。 ●バッタのからだの3つの部分のうち「むね」を答える問題は、正答率81.3%ではあるが、県の平均を6.0ポイント下回っている。 ●日なたと日かげの地面の温度の変わり方をもとに、時刻を推測する問題の正答率は65.1%で、県の平均を8.1ポイント下回っている。	・植物の育ちや昆虫の体のつくりについて、基礎的な内容を確認し、復習する。 ・日なたと日かげの地面の温度の変わり方について、復習し、確認する。 ・単元ごとに確認テストを行うなどして、単元の基礎的内容を着実に身に付けられるようにする。 ・2つの資料から推測したり、考察したりする学習を取り入れる。

宇都宮市立宮の原小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は、「家で、自分で計画を立てて学習している」68.3%、「家で、学校の授業の復習をしている」「家でテストでまちがえた問題について勉強している」73.0%、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」74.6%で、県の平均を上回っているものが多い。家庭学習について継続して指導し、さらにより良い習慣を身に付けさせたい。

○「自分はクラスの人役に立っていると思う」の質問について、児童の肯定的回答率は県の平均を大きく上回った。児童が学級の中で自分の役割を果たしながら、充実した生活を送っていると考えられる。今後も児童一人一人が活躍できる学級作りに取り組んでいきたい。

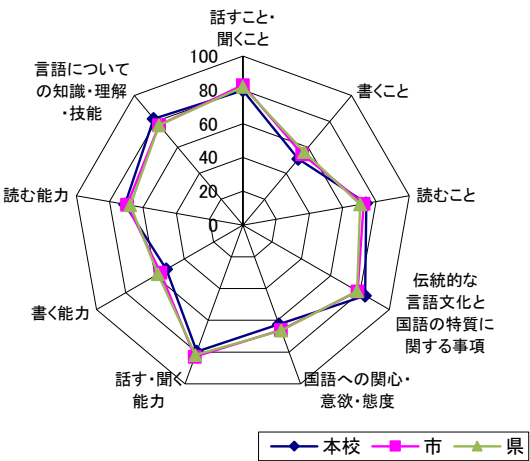
●「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問について、「11冊以上」と回答している児童の割合が県の平均を下回り、「1冊も読まない」と回答している児童の割合も9.5%と県の平均を上回っている。図書の紹介など、児童が進んで読書に取り組めるような支援をしていきたい。

●「テレビやビデオ・DVDなどを見たり聞いたりする時間」「テレビゲームをする時間」について、どちらも2時間以上と回答している児童の割合が県の平均を上回っている。長時間のテレビやゲームの影響について児童が考える機会を設けると共に、保護者の協力も得ながら改善を図っていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	79.7	82.9	81.8
	書くこと	51.1	54.8	56.5
	読むこと	74.2	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	83.5	78.4	78.1
観点	国語への関心・意欲・態度	62.4	66.0	66.4
	話す・聞く能力	79.7	82.9	81.8
	書く能力	52.3	56.3	57.9
	読む能力	70.8	69.5	67.6
	言語についての知識・理解・技能	82.0	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

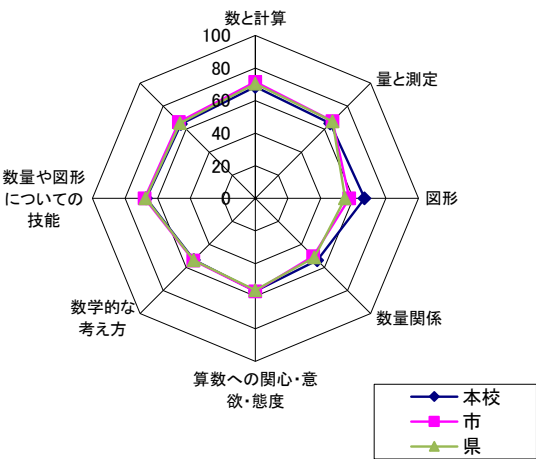
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は県の平均を下回った。 ○話の中心に気を付けて聞き取ったり、話し方の工夫に注意して聞いたりする設問の正答率は県の平均とほぼ同様である。 ●司会の役割になって、参加者の発言の共通点をまとめる言葉を考える問題の正答率は66.7%で、県の平均を8.3ポイント下回っている。	・話合いの進め方やルール、司会の役割などについて復習し、確認する。 ・国語の時間以外にも話合いの機会を増やし、話合いのスキルを身に付けさせる。 ・どの児童にも輪番で司会を担当させることで、実践の中で話合いの進行の仕方や意見のまとめ方などについて学ぶ機会を増やす。
書くこと	平均正答率は県の平均を下回った。 ●資料を適切に読み取り、条件に合わせてポスター文を書く問題の正答率は32.4%であった。県の平均も36.8%と高くはないが、課題であると言える。 ●文章を書くことに課題が多く、指定された長さで書くこと、2つの段落で書くこと、書こうとすることの中心を明確にして書くことにおいて正答率が県の平均を大きく下回っている。	・話合いの進め方やルール、司会の役割などについて復習し、確認する。 ・国語の時間以外にも話合いの機会を増やし、話合いのスキルを身に付けさせる。 ・どの児童にも輪番で司会を担当させることで、実践の中で話合いの進行の仕方や意見のまとめ方などについて学ぶ機会を増やす。
読むこと	平均正答率は県の平均を上回った。 ○物語の場面の様子や登場人物の気持ち、説明文の内容、共にしっかりと読み取ることができている。 ●段落のまとまりを理解して、文章の内容を的確に読み取る問題は、県の平均正答率を上回っているものの、正答率は45.1%であった。	・説明文では、段落の要点をまとめたり、段落相互の関係を的確に捉えたりできるように読み取りを進める。 ・文章を書く活動においても、段落を意識して書くように指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は県の平均を上回った。 ○漢字の読み書きは、全ての問題で正答率が県の平均を上回っており、昨年度と比較して基礎基本の定着が図られてきたと考えられる。 ●指示語の使い方で始めに「あそこ」と言ったものを次に「そこ」と言い換える問題は正答率84.3%ではあったが、県の平均を8.9ポイント下回っており、復習が必要だと考える。	・指示するものとの位置関係と指示語について再確認すると共に、日常生活の中で正しく指示語を使えるように意識させる。 ・言葉の学習の小単位の中で着実に身に付けさせる工夫をしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.5	71.5	70.4
	量と測定	65.0	67.0	66.9
	図形	67.0	57.6	55.0
	数量関係	53.6	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	56.9	57.0	56.3
	数学的な考え方	53.4	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	67.0	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	64.5	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

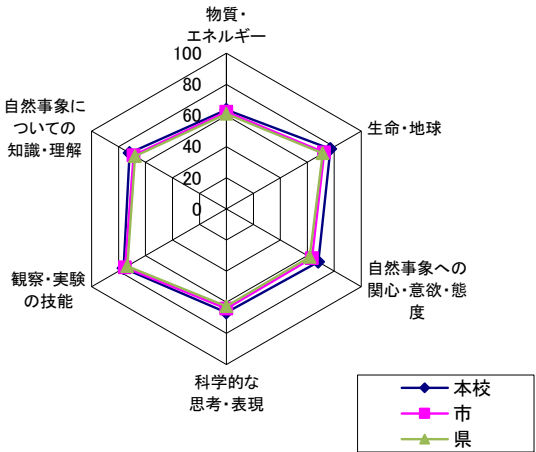
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は68.5%で、県の平均を下回った。 ○小数を割り切れるまで計算する問題の正答率は72.5%で、県の平均を10ポイント以上上回っている。 ●基本的な計算問題の正答率が県の平均を下回っているものが多く、課題が見られる。 ●5億8000万を1000万をいくつ集めた数かを選択する設問の正答率は41.2%で、県の平均を17.2ポイント下回っており、数の相対的な大きさで見方に課題があると考えられる。	・スキルの活用、朝の学習の活用、家庭学習の工夫などを通して、基本的な計算力の定着を図る。 ・数の構成や数直線の読み方など、基本的な内容を復習し、定着させる。
量と測定	平均正答率は県の平均をやや下回った。 ○四則の混じった式の計算の順序を選択する設問の正答率は70.6%で、県の平均を大きく上回った。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りを読み取る設問、180度よりも大きい角の大きさを求める式を選択する設問の正答率は、どちらも10ポイント近く県の正答率を下回っており、課題であると考えられる。	・分度器の使い方、角度の測り方について確認し、復習する。 ・数直線、長さ、重さ等も含め、一目盛りの大きさに着目して、正しく目盛りを読む練習をしていく。
図形	平均正答率は県の平均を上回った。 ○対角線の交わり方から四角形を選択する設問の正答率は72.5%で、県の平均を大きく上回った。 ●直方体の、ある辺に対して垂直な辺を選択する設問の正答率は58.8%で、県の平均を6.1ポイント下回った。	・平面での辺の平行と垂直について再度復習し、確認する。 ・立体での辺、面の関係について、実際に立体を使って復習する。 ・身の回りの立体などについて、垂直と並行の関係を感覚的に捉えさせる工夫をする。
数量関係	平均正答率は県を平均を上回った。 ○伴って変わる2つの数量関係の一方の値から、もう一方の値を求める設問の正答率は82.4%で、県の平均を9.7ポイント上回った。 ●分配法則を理解しそれを表す式を選択する設問の正答率は54.9%で、県の平均をやや下回った。	・計算のきまりについて、復習し、確認する。 ・計算のきまりを使って工夫して計算するよさや便利さにも気付かせ、活用できるようにしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.7	62.4	61.1
	生命・地球	77.1	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	68.1	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	66.6	64.1	62.6
	観察・実験の技能	76.3	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	71.8	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は県の平均を上回っている。 ○水あ氷になるときの体積変化や水の蒸発について正しく理解している。 ○電気のはたらきについて、理解が定着しており、豆電球が光る仕組みを推測したり、電流を強くする乾電池のつなぎ方を説明したりすることができている。 ●金属の温まり方を基に、ろうで固定したクリップが倒れる順番を推測する問題の正答率は43.1%で、県の平均を21.9ポイント下回っている。 ●水を温めるたたきの体積の変化を選択する問題の正答率は62.7%で、県の平均を10.5ポイント下回っている。 ●水が状態変化するときの様子から液体か気体かを選択する問題の正答率は35.3%で、県の平均を6.8ポイント下回っている。	・温度による物質の体積の変化や水の形態の変化について復習、確認する。 ・授業の中での実験結果の理解にとどまらず、学習した内容が日常生活の中でどのように応用されているかを考えるなどして、発展的に思考する力を育てる。
生命・地球	平均正答率は県の平均を上回っている。 ○オオカマキリの1年間の様子について正しく理解している。 ○動物の体のつくりと運動の仕組みを正しく理解している。 ○月の形の名称や月の動き、星の観察の仕方やを正しく理解している。	・今後も基礎的な内容を着実に身に付けられるように、きめ細かな指導を継続していく。 ・さらに発展的な学習の展開を工夫したり、児童の興味・関心に応じた探求的な学習内容を取り入れたりしていく。

宇都宮市立宮の原小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家庭学習に関する質問の肯定的回答率は、「家で、自分で計画を立てて学習している」92.2%、「家で学校の宿題をしている」100%、「家で、学校の授業の予習をしている」72.5%、「家で、学校の授業の復習をしている」80.4%「家でテストでまちがえた問題について勉強している」82.4%、「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」90.2%で、全て県の平均を上回っている。今後も家庭と連携を図りながら、家庭学習への支援を継続していきたい。

●「次の授業の内容がよく分かりますか」という質問の中で、他教科と比べ、算数のみ肯定的回答の割合が低い。また「次の教科のどの学習は好きですか」の質問の中で、社会のみ肯定的回答の割合が低い。

引き続き、教科の特性を捉えた楽しく分かりやすい授業を実践していくと共に、算数の習熟度別学習等の機会を増やすなどして個人差に応じた指導を工夫していきたい。

●「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」と回答した児童の割合は78.4%で、県の平均をやや下回っている。「地いきや社会で起こっている問題やできごとに関心がある」と回答している児童の割合が多いにもかかわらず、「新聞を読んでいる」と回答している児童の割合も県の平均をやや上回る程度である。進んで地域や社会の情報を取り入れようとする意欲は低いと考えられる。児童が社会状況や身の回りの出来事に興味をもてるような情報を提供したり、学習内容を幅広く発展させて考えさせる工夫などをしていきたい。

宇都宮市立宮の原小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の内容の定着を図る。	・漢字や計算の反復練習 ドリル、朝の学習、ミニテスト、家庭学習 ・言葉や文で使い方を身に付ける漢字練習など	漢字は、4年生、5年生共に正答率が県の平均を上回った。計算は、5年生は県の平均を上回ったが、4年生は今年度も県の平均を下回った。成果は表れてきているものの、継続指導が必要と思われる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
複数の資料から読み取ったり、教科書の内容から発展させた問題の正答率が低い。	様々な形式の問題に取り組ませ、慣れさせる。	・複数の資料から読み取ったり、複数の資料を活用してまとめたりする学習活動を取り入れる。 ・理科や算数に学習では、教科書の実験や内容のみの理解にとどまらず、他のじれに置き換えたり、日常生活の中で発展的に捉えたりするようにしていく。